

“学びの文脈”を創る国語科教育 ～新教科書「学びナビ」・「みちしるべ」に注目～


 かばやまとしろう
大妻女子大学教授 樺山敏郎

現在の学習指導要領の要諦は、学習者が「何ができるようになるか」という視点で資質・能力を3つの柱で整理したことにあります。教師が「何を教えるか」という視点は不変です。一方で、VUCA（Volatility＝変動性、Uncertainty＝不確実性、Complexity＝複雑性、Ambiguity＝曖昧性）という先行き不透明な未来社会を生きていく子どもたちに対して、一人一人が学びの主体者であるという自覚を高め、学ぶ価値や意味を見いだしながら、必要となる資質・能力の獲得に向けて自らの学びを創っていくという視点に配慮することが重要です。

こうした時代の状況を踏まえるとき、教師は子どもとともに「学びの文脈」を創ることに一層意を用いることが大切です。教師は、学習者にとって現在から未来にわたって必要となる資質・能力を捉え、そこに向かって学習者が「どのように学ぶか」というプロセスに意図的に関わっていく、子どもの学びがどのような方向へ動いていくかに思いをめぐらし、授業の中にしかけや揺さぶりを用意したり学習の流れを複線化したりするのです。学習者が動いていく、さまざまに“思考し判断し表現していく”ときに必要となるのが、“知識・技能”です。それらを目的や必要に応じて適時的確に習得できるよう、教師は先手を打ち前面に立って教えたり、じっくりと考えさせ議論させたうえで学習者に発見させたりするなど、教師の立ち位置や出番を随時検討し修正し、教科等の本質に迫る深い学びへ誘っていく営みが「学びの文脈」を創ることであり、この理念は令和の日本型教育に必要な視点です。

「学びの文脈」という用語を定義づけると、次のように整理できます。

学習者が学びの有意義を保持し、教育をなす側とともにその学びの連続性や発展性を考慮する中で、学習者に資質・能力の拡張と共創を生み出す営み

文脈とは、辞書的な意味では“文中の語と語の意味的つながりや、文章中の文と文などの続きぐあい”のことをさします。これを「学び」という概念で捉えた場合、それは学びの連続性や発展性のことであり、教科等を横断する汎

用的能力につながります。「学びの文脈」を創るには、語と語、文と文、段落と段落の整合を検討するように、「何と何」をどのようにつないでいくかが論点となります。そうした検討がカリキュラムの開発、そしてカリキュラム・マネジメントにつながっていきます。

OECD Education 2030 プロジェクトでは、「文脈」（コンテキスト）に関わり、次のような説明をしています（下線は筆者）。

子供たちが生活のあらゆる側面において積極的な役割を担っていくためには、様々なコンテキストを超えて、不確実性の中を歩んでいくことが必要である。そのコンテキストは、時間軸（過去、現在、未来）であったり、社会的な空間（家族、コミュニティ、地域、国、世界）であったり、デジタルの空間であったりする。

世界の潮流にも目を配り、よりよい未来をつくっていくためには、「学びの文脈」を時間軸やデジタルを含む空間軸という観点から揺さぶっていく必要があります。

現下、隆盛する真正の学びやPBL（Project Based Learning、問題解決型学習）の推進には、テキストの内と外、教科等の内と外、学校の内と外といった文脈の中で生きてはたらく言葉の力の育成が基盤となります。言葉そのものを対象とする国語科は、真正の文脈を意識し、かつ生徒の発達の段階に応じた能力系統に配慮しながら、未来を生きる学習者の視座に立った「学びの文脈」を創っていくことが重要です。相手や目的、意図や状況に応じて、習得した知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に発揮する実の場を工夫し、それらを拡張させていくような国語科の授業改善が求められます。

これまで述べてきた「学びの文脈」を教師と子どもがともに創っていくことをめざし、新版国語教科書は教材文の前の「学びナビ」をリニューアルして、教材文の後に配置した「みちしるべ」へのつながりに一貫性をもたせました。本通信5号に引き続き、『少年の日の思い出』を例にし、次に解説を加えます。

新版『少年の日の思い出』（『伝え合う言葉 中学国語』1年）

◆「学びナビ」（目標）から「みちしるべ」（「振り返り」）への連動

“学びの文脈を創る”国語科授業には、つきたい能力を明確にして目標を設定し、教材の特性を十分に踏まえ、適切な方法（言語活動、ICT活用等）を選択することで、子ども主体の学びを実現していくことが重要となります。“教師が教えたいこと”を“子どもが学びたいこと”へ転換できるように教科書の構成を生かして単元全体を構想していきましょう。

『少年の日の思い出』の授業を創るためのヒント

Q1 新版教科書の「読むこと」では、旧版をどのようにリニューアルしたのですか。

新版では、「学びナビ」（目標）→「みちしるべ」（振り返り）の流れに一貫性をもたせました。これに関連してリニューアルした点が大きく三つあります。

一つめは、「**学びナビ**」の**内容の充実**です。「学びナビ」のタイトルには、取り上げた教材の精査・解釈の鍵になる能力を明示しています。それらの能力を的確な学習用語にして示しています。『少年の日の思い出』では、「**入れ子構造（額縁構造）**」に**①**焦点化し、「**文学作品と時間**」**②**「**時間と構成**」の二本柱で解説しています。**③**



Q2 教材を「学びナビ」と「みちしるべ」の間に挟みこむ構成の意図は？

「学びナビ」を冒頭に配置する意図については、本通信の5号に明記したとおりです。冒頭にあることで、“教師が生徒の読みを狭めてしまう”と考えるかもしれません。むしろその逆です。「ナビ」は文字どおり、「学び（読み）」への誘いです。主意は、読みの視点を明確にもつということです。視点が明確になったほうが、読みの精度は上がると考えています。教えるべきことが曖昧な国語と揶揄されがちです。あれもこれもと欲張らず、指導事項を厳選することが大切です。

思い出

右図のように、「現在②」の場面まで語られる構成になっているれば、「入れ子構造」（額縁構造）といえますが、「現在②」は欠落しています。完全な「入れ子構造」ではありませんが、「現在①」と「過去」の場面では、同じ人物（客）と「僕」が登場して、同じ「チョウチョ集め」にまつわるできごとが語られます。また、二つの場面の最後に着目すると、「現在①」の場面では、「彼の姿は、外の間からほとんど見分けがつかなかった。私は葉巻を吸った。外では、カエルが遠くからかん筒、間一面に鳴いていた」と語られています。そして「過去」の場面で、「僕」が「チョウチョ」を一つ一つ取り出し、指でなぞるに押し潰してしまった」のは「間の中」でして、共通して「間」が描写されていることなどからも、過去と現在のつながりを読み取ることができます。登場人物それぞれの物語や別の時間に取り込まれてきたことが語られることで、読者の想像力を引き出し、読みを深められるのです。

過去
「客」の少年時代の回想
現在②

①「僕」と「エミール」のチョウチョに対する見方や価値観がわかる言葉を抜き出してみよう。
②「エミール」に対する語り方について、気がついた点をあげてみよう。

247

▲「少年の日の思い出」学びナビ

二つめは、「**学びナビ**」に「**目標**」を明示したことです。旧版では教材本文の最初のページに掲載していました。本教材の学習を進めていき、どのようなゴールにたどり着けばよいかを見通すことができます。目標との関連を図るために、最後に「**振り返り**」も明示しています。

三つめは、**学習の手引き**となる「**みちしるべ**」の**内容の充実**です。重点となる指導事項との関連を図りながら、教材の内容を捉え、考えを形成していく過程で着眼することなどを「**参考**」として示しました。

「学びナビ」の活用については、記載内容を一言一句丁寧に教えこむという発想ではなく、あくまで読みの方向を見通すものですので、単元の始めだけでなく、学びの展開に合わせてタイムリーに活用してください。大まかには、冒頭において、読みの視点のフレームを捉え（それを“国語眼鏡”と呼んでもいいかと……）、その“国語眼鏡”をかけて、教材を読んでいきます。一読後、「みちしるべ」を学習の手引きとして参照しながら、どのように読みを深めていくかを検討していきます。新版では、「みちしるべ」の一部の活動に、「**学びナビ**」と**⑦****リンク**を貼るようにしました。精査・解釈し、自分の考えを形成していく過程で、教材の読み方やポイントを再確認できます。



Q3 「みちしるべ」の最後に、「私」や「エーミール」の視点から「客」に語り直しを求める活動がありますが、これは何をねらっていますか。

本作品が入れ子構造（額縁構造）であることは、先ほどふれましたが、「現在」→「過去」で終わり、「現在」には戻ってきません。「現在」への戻りを、「客（＝僕）」の話を再現した語り手である「私」に再登場してもらおうと考えるかもしれません。そこをもう一步深掘りしていきたいものです。文学作品の理解は、登場人物の体験を追い、作品世界をその人物とともに生きることをとおしてなされるものです。それは、追体験と呼ばれる文学体験となります。本作品の中心人物は、冒頭の「私」ではなく、「客（僕）」です。「客（僕）」で帰着することが重要だと考えます。

本作品では「客（僕）」が語りだす場面は「外の景色は闇」「闇一面」であり、チョウチョをこなごなに押し潰す場面も「闇の中」でした。この「客（僕）」にとって、『少年の日の思い出』は、ずっと「闇の中」なのです。「もう、けっこう。」「不愉快」「恥ずかしい」などの叙述から、「客（僕）」はその闇から抜け出せないままであることが推測できます。回想の文学には、対人物の立場にも同化し、中心人物が我を異化すること、つまり我を再現し、我を回復させる力があるのです。「客（僕）」が再度、「エーミール」に出会い、盗みという行為に向き合い、対話するようにしかけているのが、ここで求めている、語り直しの活動になります。

そのことは、学習者（読者）にとっても有意味です。学習者（読者）が「客（僕）」の立場から「エーミール」を見るだけでなく、「エーミール」の立場から

「客（僕）」を見るという相互の関係に着目することで深い読みが実現すると考えます。模範少年である「エーミール」のことをなぜ憎まなければならないのか。「客（僕）」の欲望は、チョウチョではなく他者（＝「エーミール」）からの認知ではなかったのか。現代の中学生にも決して無縁ではない、こうした問いを浮かび上がらせることで、学習者（読者）の人間理解にもつなげていくねらいがあります。

本通信5号と合わせてご覧ください



少年の日の思い出

学びポイント 1 入れ子構造（額縁構造）

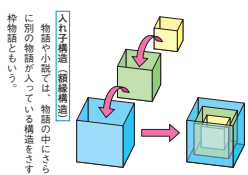
2 文学作品と時間

文学作品の書きこは、基本的に時間的な順序に従って展開されますが、一つの作品の中に、過去のことや物語がさみ込まれることもあります。大きな枠組み（作品）の中に、より小さなもの（できごとや物語）が入っていることから、入れ子構造とも呼ばれます。また、額縁の中の絵のようであることから、額縁構造と呼ばれることもあります。物語や小説に流れる時間を捉え、構成を把握することは、文学作品を読むうえで大事なことです。

3 時間と構成

少年の日の思い出は、「私」と「客」が会話する現在の場面と、「客」の少年時代が語られる過去の場面によって構成されています。

現在①「私」と「客」の会話



入れ子構造（額縁構造）
物語や小説は、物語の中にさらに別の物語が入っている構造を指す。枠物語ともいいます。

4 目標

- 行動や心情を表す言葉や語句の文脈上の意味に注意して読み、語彙を豊かにする
- 語り手に着目して作品を読み、交流を通して自分の考えを確かめるものにする。

視点・構図
語り手「アベル」と客

みちしるべ

7 内容をつまよう
1 作品の構成を確認し、現在の場面と過去の場面のつきごとや心情を整理しよう。

2 読み深めよう

「客」が「さき、けっこう。」（P251L16）、「実際に話すのも恥づかしいこと」（P251L15）と述べたのはなぜか、考えよう。
「僕」の「チョウ」や「エーミール」に対する見方、考え方は、「エーミール」の「チョウ」や「僕」に対する見方・考え方を、本文の表現を根拠に考えよう。

6 参考

次の「僕」の行動について、理由を考えよう。
(1) 「僕は生まれて初めて盗み犯した。」（P251L15）
(2) 「チョウチョを一つ一つ取り出し、指でこなごなに押し潰していった。」（P251L18）

8 参考

自分の考えを伝え合おう
「僕」（＝少年時代の「客」）の視点から語られた回想を、「私」や「エーミール」の視点から「客」に語り直したら、「客」はどのようなことに気づくだろう。友達との発言と自分の考えを結びつけながら話し合おう。

山田さん 同じ話でも、話す人によって印象が変わるのに、自分の体験を他の人から話してもらったら、どんなことに気づくかな。
町田さん 自分の好き嫌いは関係なく、客観的に聞けるといいな。気づいていなかった相手の気持ちにも気づけるといいな。少年の「僕」と大人になった「客」では、自分の体験も印象が違ってくると思うよ。

言葉・情報

次の一線部の言葉は、どのような気持ちを踏まえて使われているか、考えよう。
「とにかく、あらゆる点で、模範少年だった。」（P251L15）
「せめて例のチョウを見たいと、僕は中に入った。」

5 振り返り

この教材で学ぶ漢字

250 戯	249 珍	248 擦	247 洞	246 斑	245 触	244 飲
戯	珍	擦	洞	斑	触	飲
戯	珍	擦	洞	斑	触	飲

新出単語

254 烈	253 挿	252 鑑	251 妬	250 範	249 貼	248 栓
烈	挿	鑑	妬	範	貼	栓
烈	挿	鑑	妬	範	貼	栓

▲『少年の日の思い出』みちしるべ（P261）

▲『少年の日の思い出』みちしるべ（P262）

令和7年度版『伝え合う言葉 中学国語』

各種解説資料のご紹介

令和7年度版『伝え合う言葉 中学国語』の内容を、教育出版ホームページにて紹介しています。



特設サイト →



特設サイトでは、教科書の解説や活用に関するさまざまな資料が、ダウンロードできます！

- * 内容解説資料
- * 検討の観点と特色
- * 教科書活用「先生編」/「生徒編」（漫画でわかる『伝え合う言葉 中学国語』）
- * 「学びナビ」一覧
- * 教材紹介 作者・筆者メッセージ
- * 単元・教材一覧
- * 論理的思考と身につけたい表現の学年展開
- * 参考：論理的思考と身につけたい表現の学年展開（小中9年間全体表）
- * 文部科学省 編修趣意書 1～3年

等



内容解説資料は
デジタルブックでも読めます！

「学びナビ」や「みちしるべ」の活用については、「教科書活用（教師編・生徒編）」をご覧ください。



「学びナビ」の系統については、「『学びナビ』一覧」をご覧ください。



ぜひアクセスして
ご確認ください！！



デジタル教科書は
サンプル版を操作できます！

中学国語通信 みちしるべ Vol.7 2024（令和6）年5月発行

内容解説資料

教育出版株式会社 編集局 国語科

〒135-0063 東京都江東区有明 3-4-10 TFT ビル西館

TEL：03-5579-6278（代表）

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則り、配付を許可されているものです。